

令和4年4月28日

豊島区

独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構が発行する ソーシャルボンドの購入について

令和2年7月、豊島区は東京都で初めて「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」にダブル選定され、SDGsの目指す「誰一人取り残さない」社会の実現に取り組んでいます。

基金の運用においてもSDGsの推進に貢献するため、令和4年4月28日、「独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構（高速道路機構）」が発行するソーシャルボンドを購入しました。

○ 選定理由

- ・ 高速道路機構は国土交通省所管の独立行政法人であり、保有する高速道路資産を各高速道路会社に貸付している。また、高速道路の建設・大規模更新・修繕等にかかった債務の引受けと返済を担っている。
- ・ 高速道路の整備は生産性向上や環境負荷軽減、地域経済活性化、災害対策、インバウンド対策などの社会的意義があり、SDGsに寄与するものである。

今後も本区は、SDGs未来都市として、SDGsの理念や目標を踏まえて積極的な取り組みを推進し、国際アート・カルチャー都市の実現に努めてまいります。

※ SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業とは

「SDGs未来都市」とは、SDGsの理念に沿った取り組みを推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通し、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を内閣府が選定するもの。また、その中で特に先導的な取り組みが「自治体SDGsモデル事業」として選定される。（参考リンク：[「SDGs未来都市」豊島区](#)）

※ ソーシャルボンドとは

資金使途が社会的課題の解決に資するものに限定される債券。高速道路機構が発行するソーシャルボンドは、高速道路の新設や修繕、災害復旧により生じた債務の返済に活用されることから、国際的なソーシャルボンド原則に適合しているとの第三者評価を得ている。